



# 市長と

# 車座トーク

## 第40回 中条学区 (概要)



- 開催日時 2017年(平成29年)10月17日  
19:30~20:30
- 開催場所 中条公民館
- 参加人数 11人
- 次 第 市長のあいさつ  
意見交換  
地域からまとめのあいさつ



### 〈車座トークでの主な意見〉

- ・ひとり親世帯には児童扶養手当等それなりの手当があるが、多子世帯には特別な手当がないので困っている。少子化対策の一環として多子家庭にも市からの援助をして欲しい。
- ・中条小学校ではトゥインクル合奏団という楽団を組織して今年で7年目になる。中条小学校の音楽の先生が引っ張ってくれてこの活動が出来ている状況で、いつか人事異動で先生が異動になったら、続けられなくなるのではと心配しているので、配慮して欲しい。
- ・小学校は全校生徒140名程度であるが、人数が少ないからこそ特色ある活動ができています。統廃合なく存続できるように配慮して欲しい。
- ・中学校においては、問題が起こった場合に、警察と連携して対応することがあると聞いている。保護者としては、まずは保護者を交えての話合い、スクールカウンセラーや子ども家庭センターなどの専門知識を持った方との連携によって生徒を指導していく方が、多感な時期の子どもにとっては良い方向に立ち直っていけると思う。
- ・中学校の完全給食を目指していることは、すごくありがたい。中条小学校の給食は、炊きたたのご飯

- や地元の野菜を使ったものであり、とても美味しいと評判である。その給食が食べられるように、中条小学校の給食室を改修して人員を増やし、中学校に配達できるような仕組を提案したい。民間業者による美味しくないと給食という問題が取り沙汰されているので、自校式やセンター式が良いと思う。
- 中条学区では、平成19年4月から、まちづくり推進委員会主催で、新生児に絵本をプレゼントするブックスタート事業を実施している。この事業は、単に絵本をプレゼントするだけではなく、親子のかけがえのないひと時を応援するもの。福山市も全学区でブックスタート事業に取り組んで欲しい。新生児誕生の情報を地域で集約を図ることが難しい。個人情報の問題もあると思うが、公平に絵本の配布を行いたいので、この事業を実施している学区に、新生児誕生の情報をいただければありがたいと思う。
  - 中条地区で、空家をリノベーションした形で、年齢や世代の区切りなく集うことのできる場を作りたいと考えている。中条は無医地区でもあり、そのような場所に、月1回でも保健師の方等に来てもらえると安心。ただ、認知症カフェをしたり、子どもたちが来られるように図書室を作ったりすると、リフォームにお金が必要である。資金援助をお願いしたい。
  - 福山市消防団の分団の多くは団員の確保に苦慮しており、それに伴って団員の高齢化が進んでいる。中条分団においても同様である。市職員の中で、消防団活動に従事できるような方を、特に団員の確保が難しい山間部、強いては中条分団に入団してもらえるようにして欲しい。市職員の消防団員が、災害時には地元の活動をしやすくなる施策が出来れば、消防団としての活動も活性化できるのではないかと思う。
  - 女性会も高齢化しており人数が少なくなっている状態。高齢化のため75歳くらいの人でも女性会で頑張っている。神辺町内で、現在も市女性連絡協議会に加入しているのは中条のみであり、市女連から依頼があっても、中条女性会だけがするようになる。全ての学区に女性会ができ、市女連に加入してもらえるようになれば良いと思うのだが、市長は女性会が必要だと思うか。そして、全部の学区が市女連に加入してもらうには、どのようにしたらいいか。
  - 道路の維持管理のため、年2回、地域の皆と集まって草刈等を行っているのだが、最北の集落においては高齢化が進んでおり、参加できるのが1軒だけである。町内会全体としても戸数も減り、人口も減っている。ただ、放っておくわけにもいかないので、周辺地域の協力をいただいて清掃している。昨年、土木常設員を通じて市に応援を依頼したが、検討しますという返事以降、何も返ってきていない状況である。限界集落の市道の草刈等の支援をお願いしたい。
  - 農地所有者、非所有者等を含めて将来的に約1割しか耕作を続けられそうにない。それも、70歳以上の方が従事しているだけで後継者もない。10年後くらいには原野になるのではという危機感がある。少子高齢化で人口が減少する中、耕作放棄地をどのように活用していけば良いのかというのが、耕作者の悩み。市の対策等あったら伺いたい。
  - 中条学区は、人口がどんどん減って、小学校の生徒も減るという流れが続いている。一方で、隣の学区では住宅開発が進んで小学校の生徒数も増えている。市街化調整区域であるということに問題がある。そこで、中条に4棟で20世帯ぐらいしか住んでいない社宅の団地がある。この社宅を整備すれば、土地も安いし整備しやすい条件があるので民間業者と市が連携して、住宅を作って、人口が増えるというような形にならないかなというアイデアを持っている。

## <市長のまとめ>

- ・多子世帯向けの支援策については、国の児童手当や保育料の軽減措置があるが、それ以外のものとなると、お祝いをするという発想はあっても、支援をするという発想は福山市にもなかったと思う。全国の事例を研究してみないといけないが、支援することができるのかどうか勉強させて欲しい。
- ・小学校の人事は県の教育委員会の所管となるが、音楽の先生が異動することになる場合には、市の教育委員会から学校長へ、活動が維持できるように伝えるし、我々も県の教育委員会に地元での活動が維持できるようにお願いしてみる。是非、続けて欲しい。
- ・小学校の生徒数が現在144名である。学校再編問題が福山の課題になっているので心配されているかもしれないが、中条小学校の場合は、再編対象になるのはまだ先。当面は学校再編の議論には載らない。
- ・学校の中で解決できること、対応できることは学校です。その際には、保護者も交えて話し合いをしていくのが基本である。神辺中学校もそれを基本としているが、他の生徒への影響や、事案を起こした生徒の状況を見て、どうしても警察のサポートが必要な時はやむを得ず警察へ連絡する事がある。それぞれの学校に応じた判断を学校長の責任を持ってやっているということ。非行の無い中学校になるように、学校長以下、PTAも含めて、日ごろから取組をしていかないといけないと思う。
- ・小学校の給食について、炊きたてのご飯と共に地元の野菜が提供できているということは、とても良いことだ。時期については具体的なことは言えないが、中学校も完全給食にしていきたいと思う。小学校の調理場でつくった給食を中学校に届けるやり方と、給食センターを造ってそこから配送するというやり方の二通りがあるが、どちらを採るとしても、保護者や生徒に喜んでもらえるような給食にしていきたいと思う。
- ・ブックスタート事業はすばらしいと思った。神村学区や本郷学区でも話を伺って、是非、市の全域で実施したいと思い、行政で議論している。新生児が誕生した時の情報については、何らかの形で連絡が今より付くようにしたいと思う。
- ・集いの場として、空家を利用することについては、固定資産税や都市計画税を免除する制度がある。今はリフォーム代の支援までは制度として無いが、その必要があるのか勉強してみたいと思う。職員が状況を見させてもらい、どういうやり方が可能なのか考えてみたいと思う。サロン事業について、制度の概要を支所の方からお渡しするので、その中でどれが一番利用しやすいのか検討する中で、簡易なりフォーム等に支援制度を使っていたとというのが我々の提案である。
- ・消防団の活動について、私たち職員には、地域の活動に出来るだけ参加して欲しいと呼びかけている。行政もサポートすると同時に地元でも声掛けをしてもらって、一緒になって盛り立てながら気持ちよく消防団が活躍できるように是非お願いしたい。
- ・女性のみなさん方が一つのグループを作って意思疎通、情報交換をしながら地域の担い手になっていただけるという事は重要だと思う。そういう意味では、女性会は必要だと思う。市女性連絡協議会の在り方も、今後考えていかないといけないと思う。市女連に未加入の女性会は、何で未加入なのかどうすれば加入するのか、網羅的に担当に聞きながら解決の糸口を探っていきたいと思う。地域活動について、市女連に加盟している女性会だけに依頼がいつて、その女性会は未加入の地域の女性会の活動まで背負っているという負担を少しでも軽減するために、どうしたらいいのか考えてみる。地域の団体をどう組み立て直していくかという事は、行政の大きな使命だと思っている。
- ・市道の草刈等については、地域にさせていただける事、行政が責任を持ってやること、よく相談をしながら役割分担して、実施していきたいと思う。

- ・人口減少の社会だし、農業を維持しづらくなる時代である。それでも引き続き耕作放棄地にせず農地として再生するやり方、農業以外の利活用を考えるやり方、安全に山に戻していくやり方と、それぞれの場所に応じて選択していかないといけない。市の事業に、地域ぐるみで耕作放棄地の再生に取り組むための耕作放棄地対策事業がある。県が農地中間管理機構というのを持っている。或いは、学区外や市外から農業者を呼びこんできて、そこに委託をして農地として活用してもらう事業もある。市街化調整区域という区域指定や、農振地域という地域指定がされているから、農業以外の利用が非常にきつく制限されているという問題がある。でも、市街化調整区域の問題であれば、市が弾力的に開発規制を緩和していく、例えば住宅が建てられるようにするとか、そういう事も検討されている。そういう中で、今までの土地利用とは違った利用の仕方を考えるのも一つの手段である。
- ・社宅の団地の利活用については、空いている部屋が沢山あっても、整備することでどれだけの人を呼び込めるか考えなくてはならないし、その社宅を持っている会社に対して、一般開放を考えてくださいという事を言うのが先だろう。しかし、現場を見ながら、地域が人を呼び込むためにどういう施策があるのかを考えないといけないと思う。一方で、これだけ人口減少が進んでくると、立地適正化計画というものを全国が作らざるを得ない状況になっている。中条学区でいえば、いろいろな機能が凝縮したエリアをどこに設定して、20年、30年先の中条学区をイメージするかとういことも合わせて考えながらやっていきたいと思う。私も機会があれば現場を見たいと思うし、まずは神辺支所の担当者が今日ご指摘のあった現場を見させていただく。対応を考えていきたいと思う。

### <地域からのあいさつ>

市長が来られる前にみんなで話をしていたが、市長に現地に来てもらって、このような感じで意見交換ができるとは、未だかつて中条学区では体験した事がない。そういう意味では、市長が現場主義と言われる姿に我々も感動しているところです。皆さん方から出た意見を出来るだけくみ取っていただき、中条の最大の課題である過疎化や小学校の問題など、そういう所を受け止めていただいて、市全体の施策の中でそういう地域をどうやってフォローしていくかという事について考えていただければ、幸いだなという風に思います。